

機関誌

アクティブ福祉 vol.44 2021.2

社会福祉法人東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会

目次

- P2 特集 現会長次期会長からのご挨拶
- P4 特集 2021年度介護報酬改定について
- P6 東京ケアリーダーズが行く！うわさの施設
- P9 新時代旋風
- P10 専門委員会リレー(施設管理検討委員会)
- P11 養護分科会トピックス
- P12 軽費分科会トピックス
- P13 職員研修委員会トピックス
- P14 私の心に残るエピソード
- 裏表紙 令和3年度 読者モニターの募集



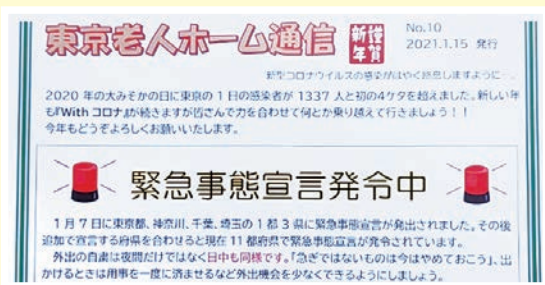
▲ P2 特集 現会長、次期会長からのご挨拶



▲ P7 コロナ禍における地域公益活動の事例



▲ P4 特集 2021年度介護報酬改定について



▲ P11 養護分科会トピックス

▲ P12 軽費分科会トピックス



Facebook
更新中!




高齢協
ウェブサイト





高齢協
会長
西岡 修
@koureikyo




YouTube



東社協
東京都高齢者
福祉施設
協議会





東京都高齢者福祉施設協議会 会長
白十字ホーム 施設長 西岡 修

COVID-19の収束が見通せない中で、皆様には高齢者を守るための日夜のご奮闘に感謝を申し上げます。

さて私は今年度をもって東京都高齢者福祉施設協議会（以下高齢協）会長を退任いたします。

平成25年度から8年間にわたり会員各位のお力添えとご尽力いただきましたことに心より御礼を申し上げます。

この間、高齢協の一番の課題は、施設や事業所で働く担い手の問題です。解決には未だほど遠く、状況は厳しくなるばかりです。介護保険制度での東京特有の課題が国の審議会議題となるなど、ようやく入り口に辿りついた状況で、忸怩たるところです。

高齢者福祉は長い人生を歩まれた高齢者の安心と心ゆたかな暮らしを支えるところに、事業の醍醐味があります。介護保険という保険制度の下で高齢者福祉事業に取り組んでいますが、改めて保険制度の限界をしっかりと認識して、社会福祉の充実、発展が大事と考えるところです。

次期改定ではICTなどデジタル技術の導入が推進されます。デジタルは0と1で組み立てられています。福祉の仕事は0と1の間に多様な情報があるので非効率かもしれません。昨今、「忸怩」が批判されていますが、社会福祉の大事な仕事は本来の意味での「忸怩」と思います。「忸怩」には人間関係が「鍵」です。そこに社会福祉の大事な基盤があると考えます。議論はありますが、デジタルによる効率化、生産性向上の成果が、社会福祉に不可欠な対人援助への十分な担い手確保の方向につながることを願うものです。

都内12ブロックの協議会や各区市町村施設長会代表者会が、皆さまのご尽力で取り組まれています。足並みが揃うのは難しいですが、巨大都市東京の中でブロック単位、区市町村単位で会員が顔を合わせ情報を交流し、持てる力で連携することの大事さを、この間COVID-19の影響も加わって実感しています。

そのような活動を通じて、施設や事業所が地域の社会福祉拠点として連携し、都民に期待される、頼りにされる活動や事業がさらに充実して展開、発展されることを願っています。

田中雅英次期会長を先頭に、高齢協への皆さまの一層のご協力をお願い申し上げます。

会長就任にあたって



東京都高齢者福祉施設協議会 次期会長
 社会福祉法人 三交会 理事長・青葉台さくら苑 施設長 田中 雅英

はじめに

このたび西岡会長の後を受けて東京都高齢者福祉施設協議会（以下、高齢協）の会長を務めることになりました田中雅英です。

コロナ禍という未曾有の危機の中で会長の大役を務める機会をいただいたことは誠に身の引き締まる思いです。副会長以下役員、事務局の協力を得て全力を尽くす決意です。会員のみなさまのご協力、ご支援を心からお願いいたします。

まず、就任にあたっての抱負を述べる前に、西岡前会長に一言お礼を申し上げます。8年間にわたり、卓抜したリーダーシップを発揮され、本協議会を率いていただきました。そのご尽力に心から敬意と感謝を表します。ありがとうございました。

抱負

現在、都内の高齢者施設の経営は厳しい状況に追い込まれています。介護人材不足、介護報酬の抑制傾向など全国的な要因に加えて、都内には高騰する人材派遣・紹介料、待機者対策としての施設整備の進展など構造的要因が隠れているからです。これに追い打ちをかけているのが新型コロナウイルスの感染拡大です。感染予防対策、陽性者等の発生によるサービスの縮小、利用控えなどにより、収益が減少している施設が増加しています。もちろん、施設内で集団感染が発生した場合のダメージは計り知れません。会長就任後は、こうした窮状を国や東京都へ訴え、制度の見直しや新たな対策を引き出します。一方、本来施設が担っている福祉サービスの低下も危惧されています。収支が赤字になるからといって高齢者施設が本来担っている福祉サービスや地域における公益的な取り組みを実施しないわけにはいきません。高齢協が取り組んでいる「アクティブ福祉グランドデザイン」を進めていくことによって、社会福祉法人としての役割を果たしていきます。

結びに変えて

コロナ禍により、高齢者施設をとりまく環境が大きく変化しています。福祉・介護業界は環境の変化に「適用するための変革」を迫られていると認識すべきでしょう。高齢協は、このコロナ禍という危機を変革の最大の機会（チャンス）と捉えて、さまざまな課題の解決・緩和に努めていきます。

1月18日、2021年度より施行される介護報酬改定の内容が公表されました。

大筋では0.7%の引き上げとなり、コロナ対策を含む介護現場の様々な取り組みに応える結果となりました。今号では報酬増に至るまでの経緯と総括について、宮澤良浩氏（制度検討委員長）と大住優氏（生活相談員研修委員）から、そのだ修光氏（全国老人福祉施設協議会 常任理事）に伺いました。

聞き手：高齢協 副会長兼広報室長 水野 敬生

※対談は1月31日に実施されました。内容は当時の状況に基づきます。

今回の介護報酬改定を振り返る

——2021年度の介護報酬改定は簡潔にまとめると0.7%の引き上げとなりました。その数字に至るまでの流れをお聞かせください。

そのだ 3年に1度の報酬改定で現場の皆様の努力に報いる結果を出せるよう、コロナ禍に対する取り組みも含めて皆様の声を国に懸命にお届けしてきました。担当セクションである厚生労働省の老健局は介護業界の厳しい状況を把握しており、調整はスムーズに進みました。しかし、最後は予算を握る財務省との折衝となりました。



左からそのだ氏、水野氏

——財務省との折衝では多大なご尽力をいただいたと伺いました。

そのだ 実際、最初は0.3%増の提示があり、そこから積み上げの折衝がスタート。その間5回主計局次長と担当主計官とで交渉し、最後に0.7%増での決着を見ました。

財務省は報酬引き上げを、例えば介護職員のみとするような条件付き（ひも付き）で報酬増額をしたいという意図があります。しかし、過去の条件付きの改定の結果、赤字になった施設があり、その一つの要因に処遇改善加算の職種条件があります。そうした条件が引き続き多く課されるのなら、0.7%では認められないという交渉も行いました。

結果として、現場が回しやすい制度ができたのではないかと思います。

宮澤 今回の結果について、前述のほかに根拠や背景はありましたか。

そのだ 財務省からは、介護報酬の財源は介護保険料と国税が1：1で負担するため、報酬を上げると国民の負担が上がることに理解を得られるかという反論もありました。しかし、このままでは現場が回らず、介護サービスの提供がストップしかねません。

保険料を受け取ってサービスが提供されなくてもいいのか、2025年問題や2040年問題がある中、将来、都市部の介護がどうなるのかと訴えました。



宮澤氏

現場のコロナ対策に応えた積み上げ

宮澤 0.7%の内0.05%は9月末までの期間でコロナ対策のための積み上げとのことですが、これは介護現場の努力への一定の評価と受け取れますか。

そのだ その通りです。この積み上げはコロナが続く限り延長されていきます。

コロナ対策費として国は別途予算を計上しているため報酬改定での上乗せは不要だという声も財務省からありましたが、それは別の話。経営改善のためこの積み上げは必要だと訴えました。

現場の声を届け処遇改善加算の運用改善へ

大住 処遇改善加算の対象の特別職が見直された経緯をお聞かせください。

そのだ これまで生活相談員などは処遇改善加算の対象となっておらず、昇格した場合の給与アップは施設の負担でした。

財務省には条件付きの加算ではなく基本報酬を上げなければ施設が回らないと再三訴え、結果として基本報酬の上昇分で生活相談員や役職者の給与アップに充てられる枠組みとなりました。



大住氏

大住 栄養ケアマネジメント加算や入浴介助加算などが見直された意図をお聞かせください。

そのだ 従来の加算を受けられていた施設はより多くの収入を得られる、努力に対する対価がよりしっかりと受け取れる形となりました。加算を受けられるよう施設が努力することが介護の質を向上させるので、税金と合わせて利用料を上げさせてくださいというメッセージです。その分施設長の皆様には加算の対象となる努力を行ってほしいと思います。

大住 管理栄養士や看護師、事務員なども支援を受けられるようになったことは感謝しています。また、かねてからの念願であった食費も今回53円の上昇となりました。

そのだ 食費はこれまでずっと100円は上げるべきと訴えましたが、様々な状況を鑑みて計算を行うと53円という数字が財務省とこちら側で見えてきて、その額に落ち着きました。

大住 職員の人員配置基準の緩和について、コロナ禍で介護・看護・育児のため休まざるを得ない職員がいますので、30時間で常勤換算という緩和は大変ありがたく感じます。

そのだ 従来から人材は足りておらず、コロナ禍でさらに厳しくなりました。これではサービス提供ができなくなる恐れもあるため、そこは大目に見る必要があるという厚労省の判断です。2025年問題に向けて、施設を維持するためという狙いもあります。

——サービス低下の可能性を指摘する意見もあったそうですが、現状は専従要件が大きく、同じ施設にいて手伝えるのに手伝えない状況もあります。そこへの理解もいただきたいと思います。

宮澤 地域区分の単価費率などについて、今回の改定での検討状況と今後の方向性について伺えますか。

そのだ 地域区分の件は今回の議論には上がりませんでした。他府県と比べると東京の高齢者は今後爆発的に増加し、大変な状況となることが見込まれます。しかし、首都圏で東京だけ特別な待遇となると近隣の県の職員が流出する事態が起こります。そのため国ではなく東京都の施策での対応を考えられます。

介護報酬増額に応えるサービス改善を

——当初、自立支援を目的として設立された介護保険は始めて 20 年が経過しますが、今回の改定では排せつや褥瘡など自立支援の部分で大きな変化が現れています。

そうした部分を私たちが会員施設にしっかり説明しなければなりません。

利用者に良いサービスを提供することこそ我々の使命で、今回の改定はさらなるサービスの改善のための第一歩だと会員施設の皆様へ伝えていきます。

そのだ 利用者に介護の質が上がったということが伝わらないと、税金と共に介護保険料が上がることに納得はしてもらえないでしょう。科学的にデータをもって、こうした取り組みをしているから利用料が上がっているというエビデンスを示さなければなりません。

そのためにも現場の職員にも今回の改定の意義や経緯を理解してほしいと思います。

今回の報酬改定は現場の皆様の努力への対価ですが、この結果に満足することなく、利用者から「これほどのサービスなら利用料をあげてもいい」と思われることを目標に、全体で努力をしていきましょう。

——次回改定に向けての課題と目標をお聞かせください。

そのだ 最大の課題は人手不足です。働きたい人を増やすためには報酬以外の要素も大きくありますが、ある程度の給与の担保は必要です。今回の改定は一定の前進はしましたが、まだそれを十分には補えていないと感じています。

今後さらに改善できるよう、全国老人福祉施設協議会として皆様と共に努力してまいりますので、どうかよろしく願いたします。



対談の様子

東京ケアリーダーズが行く！うわさの施設

東京都高齢者福祉施設協議会の数ある会員（約 1200 施設・事業所）の中で、評価の高い取り組みを行う施設を紹介するコーナー。毎回「うわさ」の施設に東京ケアリーダーズがお話を伺います。

その10

社会福祉法人 東京栄和会 なぎさ和楽苑

オンラインを活用したコロナ禍における地域の方との交流とイベント開催

コロナ禍では、これまで実施していたイベントの開催やボランティアとの交流が困難な状況が続いています。

今回は、ウェブやオンラインツールを活用し、オンラインイベント開催や地域の方との交流を実現した、なぎさ和楽苑地域包括支援センターセンター長の後藤たか子さんにお話を伺いました。

—なぎさ和楽苑の介護の日イベントについてお聞かせください。

例年「地域とともに支えあう福祉のまちづくりを目指して」をテーマとして、日ごろ介護や福祉に関わりの少ない方に関心を持ってもらうことを目標に、地域の中高生のボランティアを含め 300 名を超える地域の方に参加いただいています。12 回目の開催となる本年はサブテーマを～ Social Connection 心とこころ♥をつなげよう～として、新たなイベント様式を作ることを目標に、オンラインで開催しました。



後藤さん

—オンライン開催のために、どのような準備をしましたか。

これまで若い方に関心をもってもらいたいと思いつながら、当施設では SNS ツールを使っていませんでした。この機会にこそ始めるべきと、若手職員の協力を得て YouTube とインスタグラムをスタートしました。

—SNS に慣れない高齢者にコンテンツを見てもらうための工夫はしましたか。

イベント期間の前に地域住民やボランティア向けにスマホ教室を開催。最初は QR コードの読み取り方、YouTube やインスタグラムの見方、ラインでのテレビ電話やグループラインのやり方などをレクチャーし、そこからイベントに参加してもらうようお願いしました。教室では多くの質問もありました。

—オンラインで実施した企画はどのようなものがありましたか。

介護の日記念セミナー、学び舎なぎさ「オンラインボランティア講座」、バルーンリリース、オリジナルイベントソング作成などを企画しました。当苑 HP から詳細を見られますので、ぜひご覧ください。

—介護の日でのオンラインボランティア講座についてお聞かせください。

今年度は東京ボランティア・市民活動センターからお声掛けがあり、協働して自宅でできるボランティアをベースとした新しい取り組みをスタートしました。学び舎なぎさ「オンラインボランティア講座」として、学生や地域ボランティアの方々を交えて Zoom にて取り組みの紹介や意見交換を行い、受講後にコロナ禍で休止していた活動を再開された方もいらっしゃいました。



広瀬さん

——バルーンリリースの実施についてお聞かせください。

今年は地域の方と会えないので、少しでもリアルで視覚的な企画をしたいと思い実施しました。バルーンに利用者や職員からコロナ禍で頑張る地域の方への激励メッセージを貼り付け、リリースしました。感染対策のため苑庭で時間と人数を絞り実施。天候にも恵まれ、リリース時には歓声があがり、近隣の公園から楽しむ方もいらっしゃいました。短い時間でしたが、久しぶりに集まったことを喜ぶ方が多くいらっしゃいました。



バルーンリリースの様子

——屋外で密にならずに楽しめて、参考になります。オリジナルイベントソングはどのように作成・発信されましたか。

歌詞を介護職員や利用者の方から募り、当施設で慰問コンサートをしているバンドの方が作曲し、「同じ空の下～大切なあなたへ～」というオリジナルイベントソングを作成し、イベント当日にオンラインで配信しました。介護をうたった歌詞に共感する介護経験者もいらしたようです。動画も公開していますのでぜひご覧ください。



オンラインボランティア講座の様子

——企画全体から見えてきたことはありますか。

地域交流につながる SNS ツールは継続が課題で、それがどのように継続し活用していくか議論しています。YouTube では在宅で介護をする家族の参考になるよう、介護技術の紹介動画を作成しましたが、家族からは好評で、施設内での技術の見直しや研修にも一役買いました。スマホ教室も好評で、いずれは地域企業とコラボして高齢者のサポートを厚くできるよう推進したいと思います。

——私の施設も含め、多くの施設が地域やボランティアとの交流をどう行うかという問題に直面しています。こうした状況だからこそ、他の施設の取り組みを共有し学ぶことが発展につながると感じました。福祉は人のつながりによってこそ発展すると思いますので、オンラインも活用して活動を少しでも増やしていきたいと思います。

本日はありがとうございました。

社会福祉法人 東京栄和会 なぎさ和楽苑

所在地：〒134-0088 東京都江戸川区西葛西 8 丁目 1-1 TEL:03-3675-1201 FAX:03-3675-1203

■取材 東京都高齢者福祉施設協議会 東京ケアリーダーズ
広瀬 史夏（社会福祉法人白十字会 特別養護老人ホーム白十字ホーム）

ホームページ



インスタグラム



ユーチューブ



新時代旋風

新時代の高齢福祉デザイン検討委員会の活動について

社会福祉法人大三島育徳会
博水の郷 副施設長
デイサービス博水の郷 管理者

佐藤 朋巳

令和2年度の新時代委員会は、新型コロナウイルスの影響により対面での委員会は行えずWEB会議形式の開催となりました。対面の方が情報伝達しやすいと思っていましたが、慣れてくるとWEB会議形式でも問題がなく時間の節約にもなりました。

12月25日に行われた委員会では、「事業計画（案）」の策定、「アクティブ福祉 in 東京実行委員会」・「人材対策委員会」・「人材育成研修委員会」・「全国老人福祉施設協議会カントリーミーティングプレ開催」について報告がありました。各委員がそれぞれ担当に就き高齢協の活動に参加しています。

来年度に向けて

「コロナ禍での施設経営」、「人材対策」、「職員のメンタルヘルス」、「法人連携」、「地域公益活動」他アイデアを沢山出して、研修会を企画・開催していきたいと思います。

私はこちらの委員会から「人材対策委員会」に参加させていただいておりますが、人材対策委員会には諸先輩方も多く途中からの参加という事もありまだまだ大した発言もできておりません。新時代委員会としては各施設が採用数を増やしていけるような研修会や企画を進めていきたいと考えています。現在の所、採用担当者によるグループディスカッションや採用力UPの研修会を企画していく方向で動いています。今後は、ブロック毎又は市区町村毎の就職フェアを開催できたら良いという話が出ています。何れにしても今後大きな課題になる問題ですので、議論を深め内容を精査して前に進めていきたいです。

この誌面が発行されている頃には、新委員長が決定されていると思います。鈴木委員長から来年度も委員会を盛り上げていこうと話があり全委員が笑顔で賛同しましたので新委員長をサポートしていき、今後も情報発信していきたいと思います。

専門委員会リレートーク!

東京都高齢者福祉施設協議会内の専門委員会（※）に所属する委員から、委員会の活動内容や、ご自身の法人・施設・事業所でのホットな話題、新しい取り組み、他施設に教えた情報伝えるページです。

▶施設管理検討委員会 活動報告◀

○ワーク・エンバインメント（作業環境）に関わるワーキングチームより

安立園特別養護老人ホーム 施設長 はら けんさく 原 健作

長野県の特養で起こったおやつ事故（業務上過失致死事件）裁判について、施設現場の視点から今後注意すべきこと、問題点や課題を協議して下記のような意見がでました。

- ・ご家族との信頼関係は大切であり、食事形態等の変更は家族に説明して、状況変化に応じて適切にご家族に報告することが必要である。
- ・食事形態の変更の時には他職種で連携して決める。
- ・人手不足だとしてもカンファレンスの時間がとれば予防できたのかもしれない。介護を支える人の配置、環境が大事だと思った。

今回の判決で、介護事故における刑事責任の有無には、より明確な予見可能性が必要であることがはっきりとしました。

弁護士の平田先生の講演を3月1日（月）～31日（水）まで、高齢協ホームページで再配信します。

ぜひ施設・事業所で利用者の権利擁護等の研修としてもご活用ください!

○ICT・介護ロボットに関するワーキングチームより

シルバーコート丹三郎 施設長 くわた じゅんいち 桑田 淳一

見守りや巡回等の「間接介助」において見守りセンサーなどに代替えてゆく流れの中で、私たちは“オンライン面会”や“Web会議”などのお互いの接触を避けた方法を新たに求められることとなりました。ICT機器を活用して課題解決を図ってゆく新たな方針への転換が迫られています。多くの施設においてはイニシャルコストとの関係もあり、ICT化の意義を明確に見出せず導入に二の足を踏んでいることもありましたが、これからの施設に求められる「新たな運営課題の解決」に、今こそICTの活用を前向きに考えてゆく時期にきていると考えます。

※制度検討委員会、経営検討委員会、施設管理検討委員会、利用者支援検討委員会、人材対策委員会、災害対策検討委員会の6つの委員会の総称。各委員会には都内各地域の高齢者福祉施設より20名前後が委員として集まり、それぞれのテーマに沿った協議や研修会の開催等を行っています。

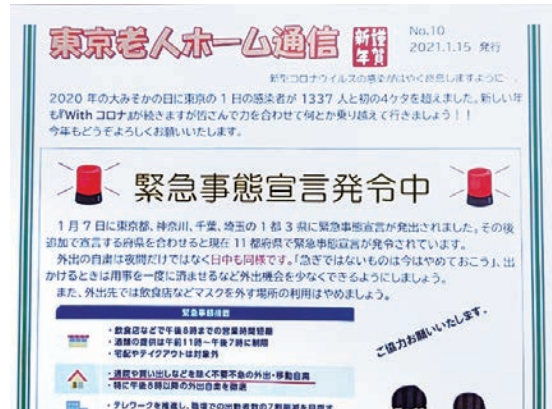


感染症対策下での取り組み

●養護老人ホーム 東京老人ホーム 施設長 原子 正男

▶ 情報へのアクセスが絶たれないように ◀

去る2020年4月、緊急事態宣言が発出されました。ホームでは外出・共用スペースの使用自粛のお願い、食堂を閉めて各居室に食事を配膳するなど「ステイホーム」の対応を実施しました。一日の大半を居室で過ごす日々の中で、新型コロナウイルスに関する情報を得る手段が分からず不安に感じる方や情報を誤って理解し行動をしている方が見受けられました。そこで、毎月発行している「ホームだより」とは別に新型コロナウイルスに関する情報を分かりやすくお伝えできるように「東京老人ホーム通信」を4月より発行開始しました。



「東京老人ホーム通信最新号 NO. 10 (2021. 1. 15 発行)」

▶ BCPの重要性を強く実感する ◀

自然災害、感染症のまん延など、不測の事態が発生しても、重要な事業を中断させない、または中断しても可能な限り短い期間で復旧させるための方針、体制、手順等を示した計画がBCP（事業継続計画）です。

コロナ禍においては、『いつかに備える』ではなく『今迫りくる危機』としてBCPの重要性を再認識する機会となりました。例えば1日1名の職員確保しかできないと想定し、感染蔓延を防止しつつ、生命を守るため必要最低限行うべき業務を決定しました。BCPや発症時の初動対応を考える上で、厚生労働省老健局の机上訓練シナリオを用いることで具体化することが出来ました。

これからも危機管理に配慮しつつ、利用者の日常生活を守れるように努めて参ります。



厚生労働省老健局 新型コロナウイルス感染症 感染者発生シミュレーション

～新型コロナに負けず体操で元気に～



●社会福祉法人賛育会 さんいくハイツ東あずま 所長 かつらだ きよえ
桂田 清江

さんいくハイツ東あずまは、社会福祉法人賛育会が運営する都市型経費老人ホームです。墨田区の立花4丁目に開設し、今年4年目を迎える新しい施設です。

男性9名女性11名計20名の方々が生活しています。

▶立花体操の始まり◀

ハイツでの生活が便利な為か身体機能のレベル低下が心配され、入居者（要支援者）にあった体操を作る事となりました。多くの方々の協力の下、2か月程でDVDが完成し、「上を向いて歩こう」のテンポに合わせて週2回30分の立花体操が始まりました。定期的に体力測定を行う等、精力的に取り組み、今ではDVDがリニューアルし、2種のオリジナルDVDと地域の方も参加し定着しました。



DVDを見ながら立花体操（密を避けて）

▶コロナ感染症を経て◀

昨年8月、さんいくハイツ東あずまも、コロナのあおりを受け、立花体操も中止となりました。幸い2名の感染でとどまり症状も軽度で大事には至りませんでした。

感染より1カ月後には念願の立花体操を再開し、敬老会やクリスマス会・新年のお祝い会も実施することが出来ました。

しかし、まだ実施できないイベントがあるため、再び開催できる日を待ち望みます。

これからもコロナに負けず、立花体操も続けていきたいと思えます。



新年お祝い会での様子
(写真撮影時マスクは外しています)

栄養研修委員会について

● 社会福祉法人平尾会 特別養護老人ホームひらお苑
栄養係主任 管理栄養士 栄養研修委員会代表幹事園

あおき まさこ
青木 昌子

▶ 栄養研修委員会の紹介 ◀

栄養研修委員会は、12ブロックの管理栄養士等から構成される委員会です。管理栄養士は一人職種というケースも多く、経験年数も様々なため、幅広いテーマで実務的な研修会を年に2回企画・運営しています。今年はコロナ禍のためリモートによる委員会や研修会の実施となりました。

▶ 栄養士目線の研修 ◀

研修内容は、高齢者の栄養管理、認知症の食支援、看取り、多職種連携、緊急時の食事、地域貢献など多岐にわたります。企画の際には、研修後のアンケートを参考にします。ニーズとしては管理栄養士の専門スキルを高めると同時に、食支援は一つの職種では完結しない為、多職種連携で研修を実施して欲しいとの声が多く聞かれます。また、近年の自然災害の増加から、緊急時の食事提供は定期的を実施して欲しいとの声も多く聞かれます。

▶ 過去の研修アンケートからの声 ◀

- 多職種協働について日々楽しく過ごすために、それぞれの分野での意見を出し合い、共有する事が重要であると思いました。
- 演習を行う事で、嚥下や口腔内の状態が体感できわかりやすく理解できました。
- 実際に災害を経験された方のお話だったので今後の非常備蓄食の参考になりました。

▶ 次年度の研修予定 ◀

次年度は2回の研修会を予定しており、5月に「介護報酬改定と栄養ケア」、秋頃に「食事形態と観察ポイント」を取り上げます。

笑顔に励まされ

先日、退所されたご利用者のご家族から 1 通のお手紙が届きました。

お手紙には、お礼の言葉とともにコロナ禍により在苑中、面会の機会が減っていたご家族へスタッフがご送りしたお写真をご覧になられた際に感じられたお気持ちが記されておりました。

『スタッフの皆さんが温かく親切だったことが写真の笑顔でわかり、幸せだったと思います。』お手紙によりスタッフもご利用者の笑顔を思い出し、別れの寂しさを実感したのと同時にご家族からのお気持ちにふれ涙が溢れる感情となったスタッフも多くありました。

この 1 年ご利用者・ご家族にとって面会が制限され、寂しさを感じる日々も多くあったと思います。

そしてスタッフも感染予防という緊張の糸が張り詰めたような毎日に身体だけでなく心も疲れていると感じることもあります。

温かいお手紙にふれスタッフが勇気付けられたことは確かです。

コロナ禍において感染予防以外に何を目標としてケアにあたれば良いのか、見失いそうな日々の中、やはり心を大切に笑顔を引き出すケアが大切であると改めて気づかされた思いでした。

まだまだ、大変な日々が続くと思いますが施設の中でより多くの笑顔が見られるよう頑張っていきたいと思います。



編集後記

今回の特集では、介護報酬改定についての報酬増に至るまでの経緯と総括について紹介されました。

連日「コロナのユートピア」が飛び交い、社会

保障全体が厳しい状態であることが予想できていたため、現場職員の努力が認められているよって、0.7%の報酬増は大変うれしく感じました。反面、厳しい交渉の末上げていただいた評価を落とすことなくケアの質を向上させていかなければと気を引き締める思いです。

令和2年度では、コロナ禍のため様々な行事・ボランティア活動がストップしてしまいました。外に出る機会が少なくなってしまう高齢者の方々は、一回一回が大事な機会であると思われまします。外に出る機会が減ってしまった分は確かにあります。が、感染対策に準じつつ動画やSNSを通じて、人と人との関わり合いがなくならないように環境の整備をして、繋がりのある生活を安心して過ごして頂けるように、日々支えていかなくてはと、コロナ禍になって改めて考えさせられました。

社会福祉法人 友愛十字会

玷ホーム 小谷野 祐樹

アクティブ福祉

これからの 施設見学

~ New Style 内覧会 ~



- ✓ 圧倒的リアリティ
- ✓ 施設入居を疑似体験
- ✓ 求職者への職場案内

モニターキャンペーン

撮影、編集、運用まで全てお任せください

限定
先着 **5** 施設様

床面積 80m²まで 通常価格 ~~55,000円~~

モニター価格 **24,000円**

※上記金額は全て税別表示になります。

サンプルはこちら



生活相談員様、採用担当者様のために
施設訪問ができなくても、施設案内をしやすいです。



360度 VR、4K 画質、説明・動画・リンク埋め込み・実測データ表示可



Produce of care image
介護の応援

運営 株式会社木万屋商会
東京都中央区日本橋本町3-3-4 日本橋本町ビル4F

動画・WEB・パンフレット制作などで入居者募集、
求人对策など介護施設の皆様のお役に立つサービ
スを提供しています。

「一般社団法人 全国介護付きホーム協会」賛助会員
「公益社団法人 全国有料老人ホーム協会」賛助会員

介護の応援



03-3272-8000
key@key-man.co.jp

機関誌「アクティブ福祉」

令和3年度 読者モニターの募集

機関誌の内容を読みやすく会員の皆様に役に立つような、より充実した誌面づくりをするために、読者モニターを募集いたします。

依頼内容

機関誌の内容に関する客観的なご意見やご感想を伺います。

WEB上の回答フォームから入力いただく予定です。(必要時間：10分程度)

●依頼回数

令和3年度内 全4回（令和3年6月・8月・12月、令和4年2月）予定

●対象

東社協 東京都高齢者福祉施設協議会 会員施設・事業所 職員 20名予定

●謝礼

クオカード 2,000円分（1回あたり500円×4回）

応募方法

●下記QRコードから応募フォームに直接アクセス



●東京都高齢者福祉施設協議会ウェブサイト トップページから

- ➔ 『機関誌・タブロイド判』をクリック
- ➔ 『読者モニター 応募フォームはこちら』をクリック
- ➔ 応募フォームに必要事項を入力してください。

応募締切

令和3年3月26日（金）まで

*応募数が多い場合、抽選により決定いたします。

*依頼が決定した場合は事務局よりご連絡させていただきます。

Active Fukushi

